

平成 17 年度

サービス分野人材育成プロジェクト業務報告書

「人材マップ・人材育成計画（概要版）」

— ホームページ作成代行業 —

平成 18 年 3 月

株式会社 NTT データ経営研究所

1. ホームページ作成代行業の概要

(1) 概要

ホームページ作成代行業とは、民間企業や官公庁、地方自治体などから委託を受け、ホームページの制作・運用などを行う業種です。ホームページは企業活動にとって年々重要な位置を占めるものになっており、企業や官公庁の「インターネットで行えること」が増えた一方で、それを実現するための技術は高度化しています。そのため、専門的技術を持たない企業をはじめとして、ホームページ作成代行業へのニーズが高まっています。

(2) 市場動向

ホームページ作成代行業の市場規模についての統計はありませんが、コンテンツビジネスの市場規模は、平成 15 年情報通信白書によると、パソコン向けが前年度比 14%増の 1,675 億円、携帯電話向けが前年度比 52.8%増の 828 億円となっています。

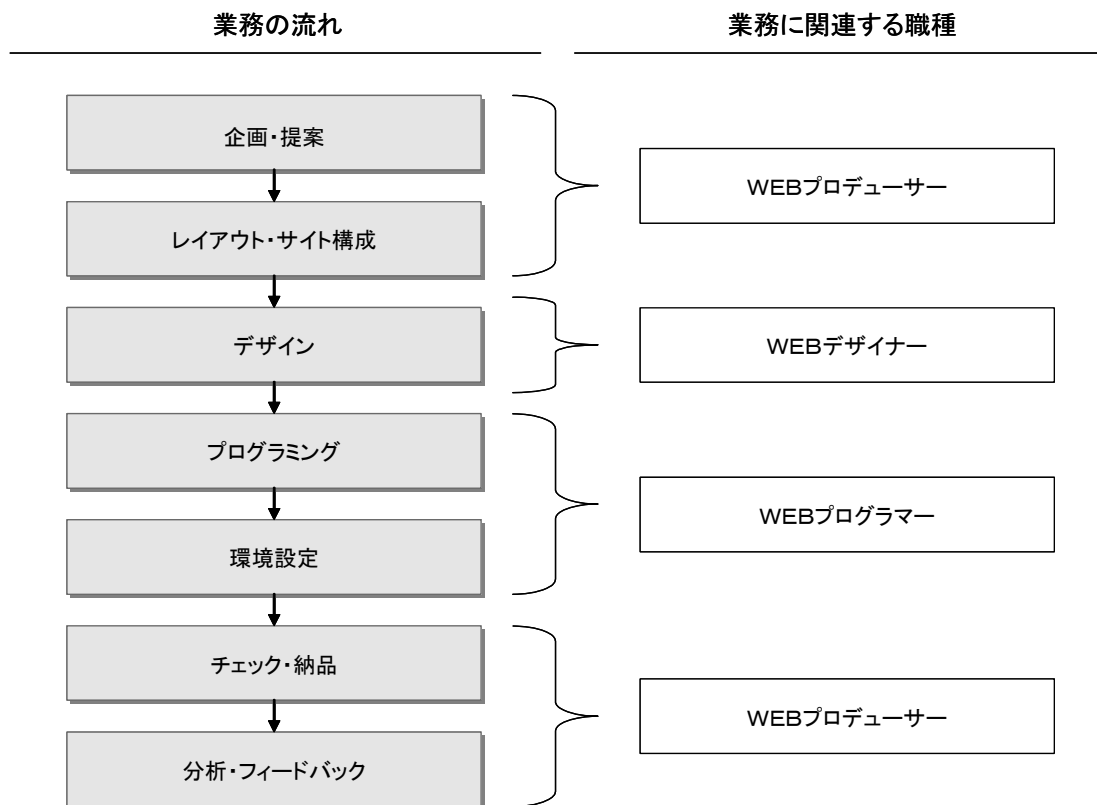
ホームページ作成代行業の市場規模の概況としては、近年急激に伸びており、今後も市場拡大が期待できると言えるでしょう。また、ソフトウェアの発達により、代行業としての位置付けが低下する傾向も見られます。したがって、ホームページの作成だけでは競争に勝てないため、管理・運営も付加したサービスが台頭しつつあります。

一方、ホームページ作成代行業の労働市場規模としての数字はありませんが、その概況としては、近年当該サービスに対するニーズが伸びてきていることから、今後更なる労働力（人材）の必要性が推察されるといえるでしょう。特に、この業界では、業界自体が若いこと、また、現在働いている人は若年層が多く、離職率も高い傾向にあるため、経験を積んだマネジメントレベルの人材の不足が懸念されています。

(3) ホームページ作成代行業に関連する業務の流れと職種

ホームページ作成代行業では、前述のサービスを提供するため、下図に示すような流れで業務を実施しています。ホームページ作成依頼を受けたり、コンペに参加したりすると、まず、クライアントに対してホームページの企画・提案を示して受注を獲得します。受注を獲得すると、作成するホームページのアウトラインを設計し、プロジェクトの体制を組み、スケジュールの設定、WEBデザイナー、プログラマーの体制作り、必要であれば外注先の選定など、作業計画を設定します。そして、その計画に沿って、デザインを行い、実際のサーバーの設計・構築、メンテナンスや、各コンピュータ言語によるWEBプログラミングを行います。

したがって、ホームページ作成代行業に関連する主な職種は、「WEBプロデューサー」「WEBデザイナー」「WEBプログラマー」があります。



【参考：労働省編職業分類】

「WEBプロデューサー」	241	その他の管理的職業
「WEBデザイナー」	184	デザイナー
「WEBプログラマー」	062	プログラマー

2. 職種「WEB プロデューサー」

(1) 労働市場の概況

職種「WEB プロデューサー」における雇用形態としては、正社員での採用が多く、派遣や契約社員は少ない状況です。また、年齢構成としては、20代～30代が中心です。さらに、男女構成としては、男性7割、女性3割くらいになっています。賃金については、新卒では約23万円、中級レベルでは30万円、上級レベルになると35万円～40万円が業界の一般的な月収となっています。

(2) 職務内容と職務遂行能力

職種「WEB プロデューサー」における職務内容は、企画、提案による案件の受注という営業的な職務から、プロジェクトやコストのマネジメント、レイアウトの考案・作成、納品に至るまでを一貫して担当します。ショッピングサイトの構築などの案件によっては、アクセスログ分析などのコンサルティング業務も行います。

職種「WEB プロデューサー」において、入職から半年～2年程度は、初級と位置づけられ、上司からのサポートが必要な新卒や未経験者等が該当します。主な職務内容としては、プロジェクトの管理、コーディネーションを担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、クライアントの要望を理解し、プロジェクトの立ち上げ、管理ができることと考えられています。

次に、職務経験が初級から1年～5年程度になると、中級と位置づけられます。主な職務内容として、レイアウト・サイト構築やプロジェクト管理を担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、プロジェクト全体を通しての予算・コスト管理ができること、プロジェクト管理を単独で一通りできることと考えられています。

そして、職務経験が中級から3年～5年以上になると、上級と位置づけられます。主な職務内容として、企画や提案を担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、クライアントに対してクライアントの経営戦略全体を考慮したWEB戦略を提案し、クライアントの求めている以上のものを提供することができることと考えられています。

(3) 人材要件

職種「WEB プロデューサー」において求められる人材像としては、この職種では、クライアントとの窓口となって提案したり質問に対応したりすることが多いため、インターネットやハードウェアに関する広汎な知識が求められます。さらに、クライアント企業の営業・広報戦略の一端を担うということから、マーケティングに関する知識があることが望ましいといえます。

また、「WEB プロデューサー」には、プレゼンテーション能力やデザインセンスに加え、企画・提案力、情報収集力、マネジメント力に関する事項が重視されています。さらに、クライアントとの信頼関係を築き、スタッフを管理する者として、明朗で人付き合いが上手なこと、几帳面さ、忍耐力、強い精神力が求められています。

他方、この職種における関連資格としては、各種「情報処理技術者」や「IT コーディネータ」など IT 関連のものがあります。特に必須ではありませんが、自らの能力を示すものとなり、自分の強みとなります。この職種に転職する場合、企画職や営業職、コンサルタント経験、雑誌などの媒体の編集職の経験が活かされます。

【関連資格】

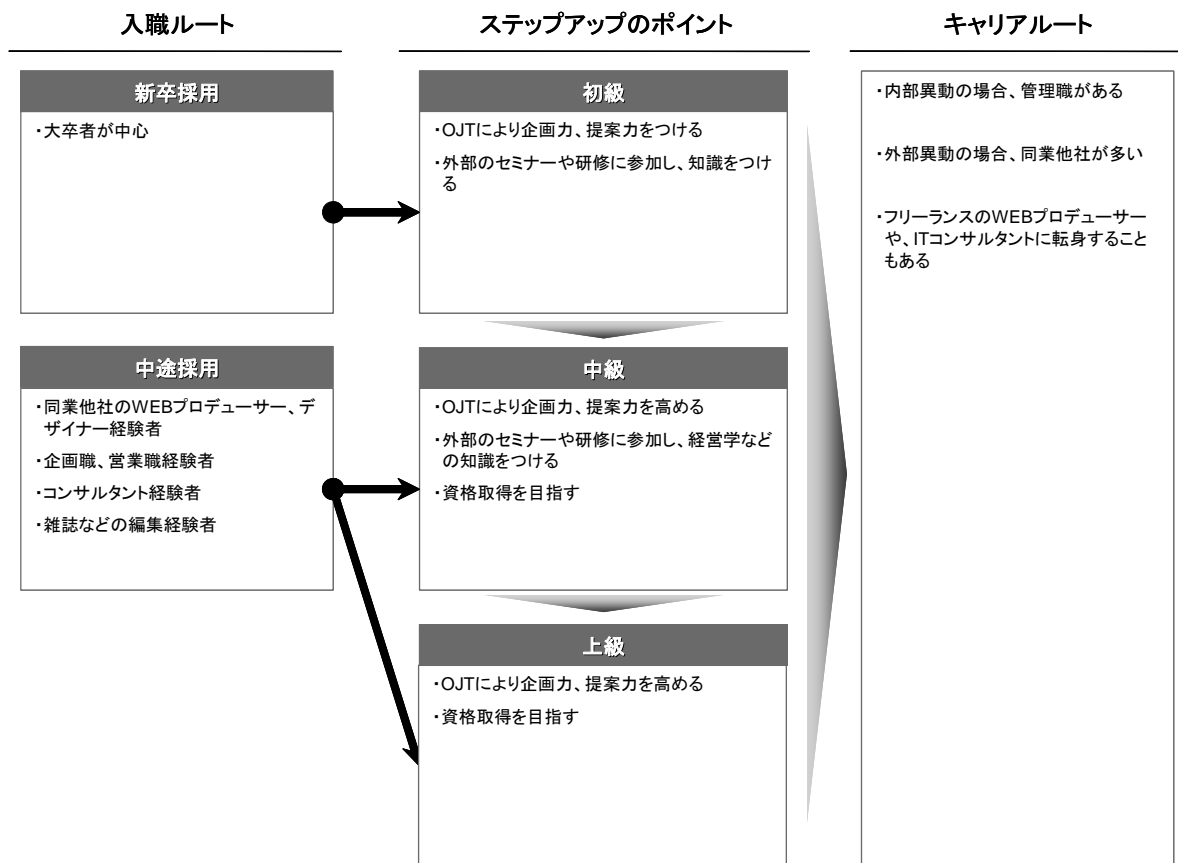
「情報処理技術者」	経済産業省が認定する国家試験で、独立行政法人情報処理推進機構が実施しています。情報システムの開発・運用側 11 種と利用側 3 種の各分野での試験があり、春と秋に分けて実施しています。
「IT コーディネータ」	特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会が IT コーディネータを認定する制度です。協会が実施する試験に合格するとともに、ケース研修を受講修了する必要があります。

(4) 入職ルート・キャリアルートとステップアップのポイント

職種「WEB プロデューサー」の入職ルートは、初級レベルの人材は新卒採用で、マーケティングなどの知識を持った大卒者が多いです。中級レベル以上の人材は、即戦力を求めるため、WEB プロデューサーやデザイナー経験者の中途採用が主になっています。

職についてからのキャリアルートとしては、職能をステップアップ（多能化）させていった後、同業他社への転職や、実績を武器に、フリーランスのWEB プロデューサーや、IT コンサルタントに転身する場合があります。

さらに、この職種のステップアップの方法として、社内研修やOJTのほか、社外の各種セミナーに参加することや、各種「情報処理技術者」や「IT コーディネータ資格」など、IT 関連の資格を取得することが望ましいと考えられています。



(5) 人材の過不足状況感

職種「WEB プロデューサー」における労働市場の人材の過不足状況感としては、特に初級レベルに対しては大きな不足感はありませんが、案件受注のための企画・営業力のある即戦力、中級レベル以上の人材については不足感があります。

3. 職種「WEB デザイナー」

(1) 労働市場の概況

職種「WEB デザイナー」における雇用形態としては、正社員が多く、試用期間として契約社員やパート・アルバイトで採用し、正社員に登用する場合があります。また、年齢構成としては、20代～30代が中心です。さらに、男女構成としては、男性が約8割と多くなっています。賃金については、新卒では約18万円、中級レベルでは約25万円、上級レベルになると30万円くらいというのが業界の一般的な月収となっています。

(2) 職務内容と職務遂行能力

職種「WEB デザイナー」における職務内容は、WEBプロデューサーが企画したプロジェクトのコンセプトやイメージをもとに、サイト全体のカラーやテイストを決め、デザインを行います。デザインが決定すると、動画などと文字情報を組み合わせるオーサリングにより、サイトの完成度を高めます。最後に、デザインをコンピュータ言語化するコーディングを行い、一連のWEBデザイン作業が終了となります。

なお、使用するソフトウェアはPhotoshop、Illustrator、Dream waver、Macromedia Director、Macromedia Flashなどがあり、いずれのソフトウェアについても習熟が求められます。

職種「WEB デザイナー」において、入職から1年～2年程度は、初級と位置づけられ、主な職務内容としては、WEBデザインを担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、WEBデザイン作成に必要なコンピュータ言語や技術を習得していること、クライアントの要望を理解し、適切なデザインができることと考えられています。

次に、職務経験が初級から1年～3年程度になると、中級と位置づけられます。主な職務内容として、WEBデザイン、オーサリング、コーディングを担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、初級に比べ、スキル・スピード面でのレベルアップ、またFlashなど高度なソフトウェアを使いこなし、デザイン性・機能性の高いサイトを構築できることなどと考えられています。

そして、職務経験が中級として2年以上になると、上級と位置づけられます。主な職務内容として、設計を担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、クライアントやWEBプロデューサーに対して、新たな提案ができること、またそれがするための高度なスキルを身につけていることと考えられています。

(3) 人材要件

職種「WEB デザイナー」において求められる人材像としては、当然のことながらデザインのセンスがある人ということになるでしょう。ただし、デザインのセンスがあるだけではなく、クライアントの意向を漏らすことなく的確に汲むことができなければならないので、理解力や協調性も持ち合わせている必要があります。その一方で、没个性的であると、デザイナーとしての価値は低いものになってしまうため、WEB デザイナーには独創性も求められます。

また、「WEB デザイナー」には、ソフトウェアを使いこなす能力に加え、スケジュールを遵守できる自己管理能力や、マーケティングに関する一定の知識、新しく出てくるテクノロジーについて貪欲に情報収集する意欲が必要とされます。また、クライアントと直接折衝することもあるため、コミュニケーション能力が求められ、技術やセンスだけでなく人柄も重視されます。

他方、この職種における関連資格としては、「Photoshop クリエイター能力認定試験」や「WEB クリエイター能力認定試験」「Flash クリエイター能力認定試験」など技術系の各種資格がありますが、特に必須とはしていません。資格よりは実力、実績重視となっています。

この職種に転職する場合、インターネット関連の経験や、DTP デザイナー、インテリアデザイナー、イラストレーターなどの経験が活かされます。

【関連資格】

「Photoshop クリエイター能力認定試験」	株式会社サーティファイが実施する認定試験で、1～3級、知識試験と実技試験があります。
「WEB クリエイター能力認定試験」	株式会社サーティファイが実施する認定試験で、初級・上級の設定で、規定問題とメンテナンス問題があります。
「Flash クリエイター能力認定試験」	株式会社サーティファイが実施する認定試験で、初級・上級の設定で、オブジェクト作成部門とタイムライン作成部門があります。

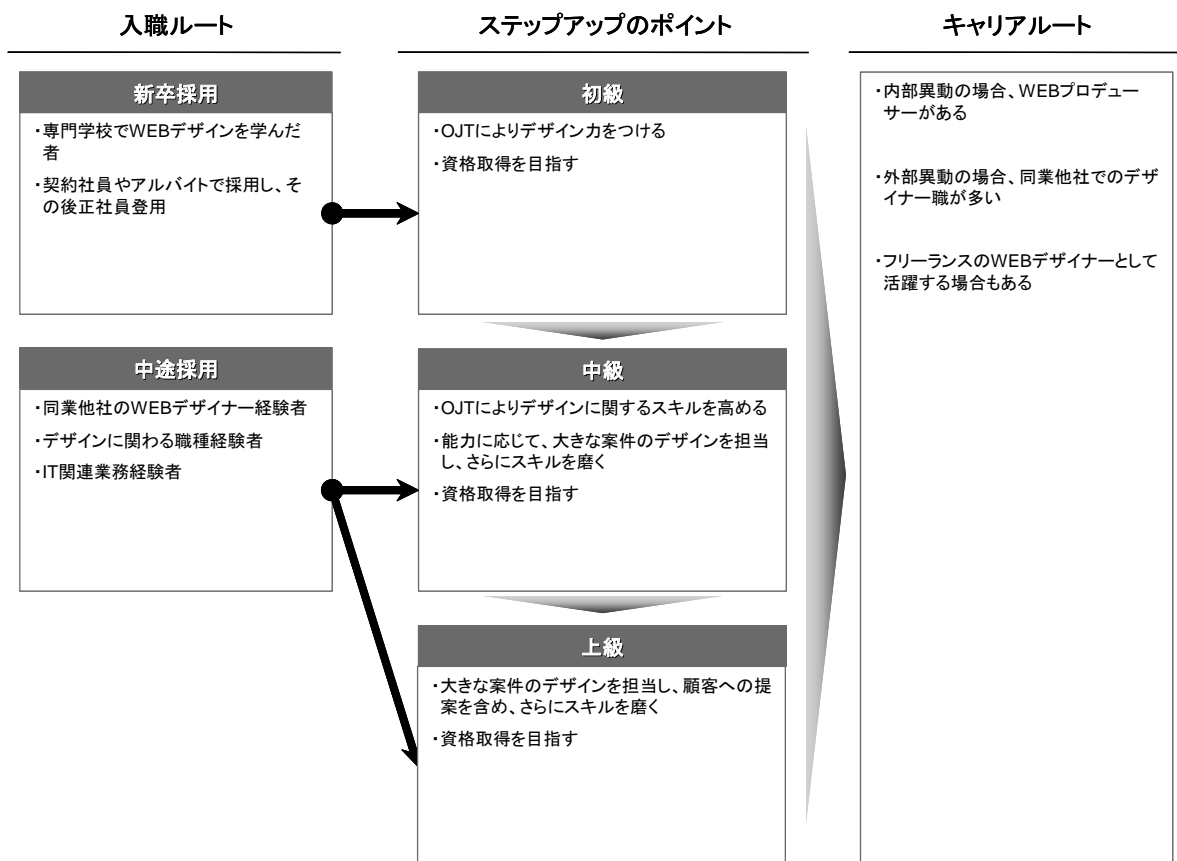
(4) 入職ルート・キャリアルートとステップアップのポイント

職種「WEB デザイナー」の入職ルートは、同業他社で経験を積んだデザイナーの中途採用が中心となっています。試用期間として契約社員やパート・アルバイトで採用し、有能な人材であると判断すると正社員契約へと変更する場合があります。

新卒採用は多くありませんが、採用する場合は、専門学校でWEB デザインを学んだ人材を採用する場合があります。

職についてからのキャリアルートとしては、職能をステップアップ（多能化）させていった後、同業他社への転職や、WEB プロデューサー職への異動、また、それまでの実績を武器にフリーランスのWEB デザイナーとして独立し、活躍する場合があります。

さらに、この職種のステップアップの方法として、OJTのほか、「Photoshop クリエイター能力認定試験」や「WEB クリエイター能力認定試験」、「Flash クリエイター能力認定試験」などの各種資格を取得することも、自分の実力を目に見えるものとするのに有効だと考えられます。



(5) 人材の過不足状況感

職種「WEB デザイナー」における労働市場の人材の過不足状況感としては、特に初級に対しては大きな不足感はありませんが、業界自体が新しいということもあって、多くの経験や実績を積んだ中級レベル以上の人材については不足感を感じています。

4. 職種「WEBプログラマー」

(1) 労働市場の概況

職種「WEBプログラマー」における雇用形態としては、正社員が多く、試用期間として契約社員やパート・アルバイトで採用し、正社員に登用する場合があります。また、年齢構成としては、20代～30代が中心です。さらに、男女構成としては、男性の割合が約8割と多いです。賃金については、新卒では約18万円、中級レベルでは約25万円、上級レベルになると30万円くらいというのが業界の一般的な月収となっています。

(2) 職務内容と職務遂行能力

職種「WEBプログラマー」における職務内容は、仕様の設計を行い、設計に沿って各種言語による記述（プログラミング）を行い、テストを重ねてバグを取り除くデバッグという作業を行います。また、必要に応じてWEBサーバーの構築も行う事になります。構築したサーバーのメンテナンス等、障害への対応作業も担当します。

職種「WEBプログラマー」において、入職から半年～1年程度は、初級と位置づけられ、主な職務内容としては、プログラミングを担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、各種プログラミング用語を理解し、使いこなすこと、プログラム構築ができること、適切なテスト、デバッグを行うことができることと考えられています。

次に、職務経験が初級から1年～3年程度になると、中級と位置づけられます。主な職務内容として、プログラミングや環境設定を担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、プログラミングを行う上で、あらかじめバグの発生を予測し回避できること、各種サーバーソフトを使いこなすことができることなどと考えられています。

そして、職務経験が中級から3年以上になると、上級と位置づけられます。主な職務内容として、仕様設計、プログラミング、環境設定を担当します。このレベルにおいて求められる職務遂行能力は、データベースの効率的な設計・構築やサーバーの構築ができること、またそれができるための高度なスキルを身につけていることと考えられています。

(3) 人材要件

職種「WEB プログラマー」において求められる人材像としては、より多くのプログラム言語を習得している人が望まれます。Perl、PHP、C 言語、JAVA など、クライアントからの指示で、言語があらかじめ決まっている場合が多いため、習得している言語が多いほど業務の幅が広がります。また、求められる資質としては、忍耐力や集中力、体力といった点があげられるでしょう。

他方、この職種における関連資格としては、各種「情報処理技術者試験」や「オラクルマスター」などの IT 関連のものがありますが、特に必須ではありません。この職種に転職する場合、プログラミングの経験、パソコンのメンテナンスや修理などの経験などが活かされます。

【関連資格】

「情報処理技術者」

経済産業省が認定する国家試験で、その試験は独立行政法人情報処理推進機構が実施しています。情報システムの開発・運用側 11 種と利用側 3 種の各分野での試験があり、春と秋に分けて実施しています。

「オラクルマスター」

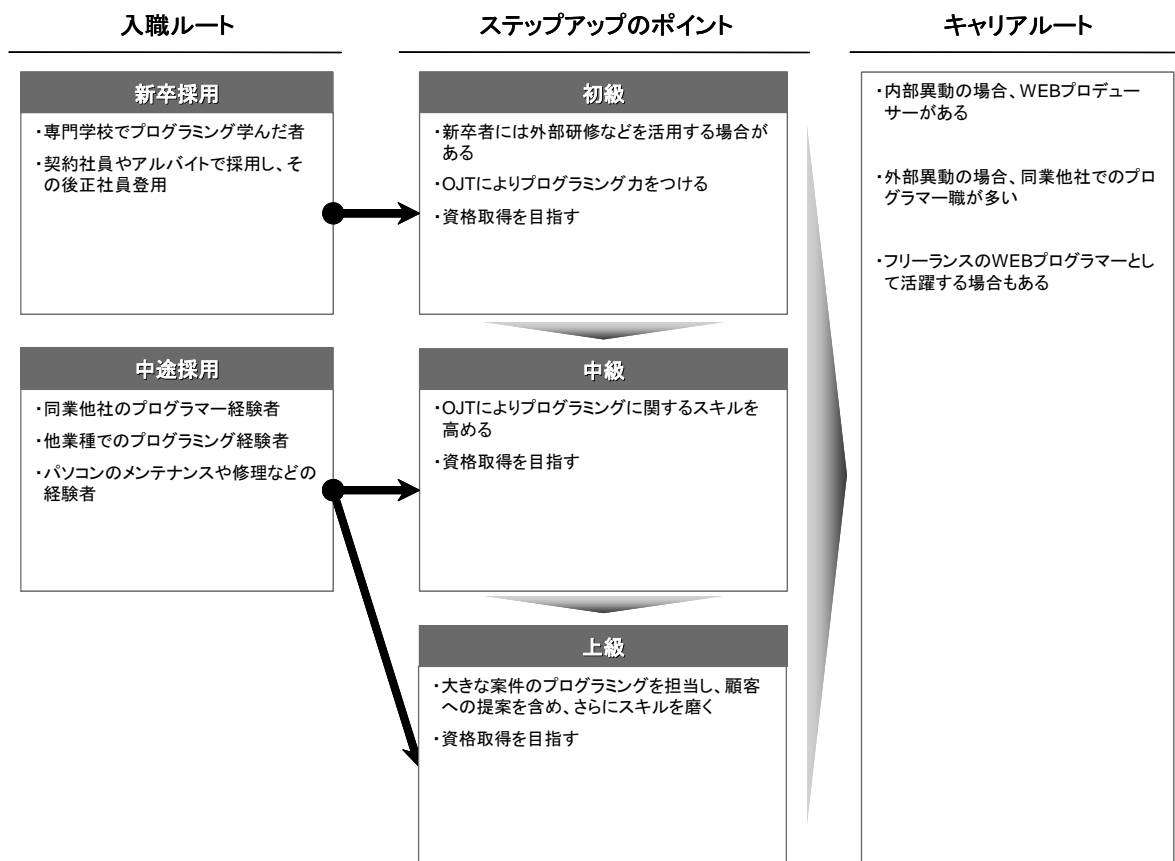
Oracle 社による Oracle 製品を扱う技術者の技術認定資格で、データベース管理・運用、アプリケーション開発の 2 系統に大別され、それぞれ数段階にランク分けされています。

(4) 入職ルート・キャリアルートとステップアップのポイント

職種「WEBプログラマー」の入職ルートは、同業他社で経験を積んだ即戦力の中途採用が中心となっています。試用期間として契約社員やパート・アルバイトで採用し、有能な人材であると判断すると正社員契約へと変更するケースが多いです。未経験者の中途採用はあまり頻繁ではありません。新卒の場合は、社内で核となるプログラマーの育成を念頭において、専門学校などで知識をつけている人材を採用するケースが多いです。

職についてからのキャリアルートとしては、職能をステップアップ（多能化）させていった後、同業他社への転職や、WEBプロデューサー職への異動、また、それまでの実績を武器にフリーランスのプログラマーとして活躍する場合があります。

さらに、この職種のステップアップの方法として、OJTのほか、外部の教育機関での社外研修に参加することがあります。また、各種「情報処理技術者試験」や「オラクルマスター」など、IT関連の資格を取得することで、自分の技術力を示す目安とすることができるでしょう。



(5) 人材の過不足状況感

職種「WEB プログラマー」における労働市場の人材の過不足状況感としては、初級、中級、上級ともに不足感があります。特に初級では、若くて体力のある人材、中級以上では、実践経験がありマネジメントまでできる人材を求めています。